

～ セピア色の風景 ～

青田 茂雄

仙台建設業協会専務理事

「子どもと自転車」

先日、子どもをふたり乗せ
たお母さんの自転車と出会い
ました。

前には、大きくU字型に
なったハンドルの真ん中に子
ども用のシート、後ろには足
の車輪への巻き込みを防止し
た、いわばレガース付きの
シート。なおかつ、シートは
子どもの頭の高さまで背もた
れがあり、後ろの子どもは
ぐっすり気持ち良さそうに
眠っていました。

ふと、子どもを乗せたセピ
ア色の自転車風景を思い出す
と、おんぶされた子どもなら
ともかく、子どもが眠る姿は
よみがえりません。

後ろに乗るときは、がっち
りした四角い荷台の上に「せ
んべい布団」を畳んで敷き、
「足が危ないからしっかり広
げていろ」、かつ「落ちない
ようにしっかりと親の腰につか
まっている」と言われました。



子どもが見えるのは、顔を横
にして腰にしがみついている
ため、片側の風景だけでした。

そして前に乗るときは、サ
ドルからハンドルの縦棒に
真っ直ぐに伸びた水平の横棒
に、これまた「せんべい布団」
を二つ折りにして載せたのが
子どもシートでした。「足が
危ないからしっかり棒（ハン
ドルから下へのびる縦棒）を
はさむようにしている」、「落
ちないようにしっかりと両手で

ハンドルにつかまっている」
と言われ、右側に付いている
ベルのいたずらを我慢したも
のでした。

砂利道の凸凹から来る振動
は半端ではなく、後ろの荷台
はともかく、前の席でのお尻
へのめり込み痛はなかなか
ものでした。

それでも子どもは、せが
んで自転車に乗せてもらい、「ら
くちん、らくちん」と叫びな
がら喜々として出かけていき
ました。

子どもは、風切る快感と
もに、ほしいものを得る、あ
るいは楽しいことができるに
は、苦痛や我慢が伴うことを
自然と学んでいきました。

●あおた・しげお 1956年
生まれ。福島県相馬市出身。20
16年5月から仙台建設業協会の
専務理事を務める